

院内がん登録とは

院内がん登録とは、がんの診断・治療を受けた全ての患者さんについて、がんの診断、治療、予後に関する情報を登録する仕組みです。院内がん登録は各医療施設のがん診療の実績を明らかにするという目的があります。

当院の「院内がん登録室」では、当院におけるがん診療の実態を把握し、がん診療の質の向上とがん患者さんの支援を目指して、以下の諸活動を行っています。

- ① がん患者さんの診療状況の把握
- ② がん患者さんの生存率の計測
- ③ 病院の対がん医療活動の企画、評価のための資料提供
- ④ 診療活動の支援、研修、教育のための資料提供
- ⑤ 臨床疫学研究の支援
- ⑥ 地域がん登録への届け出

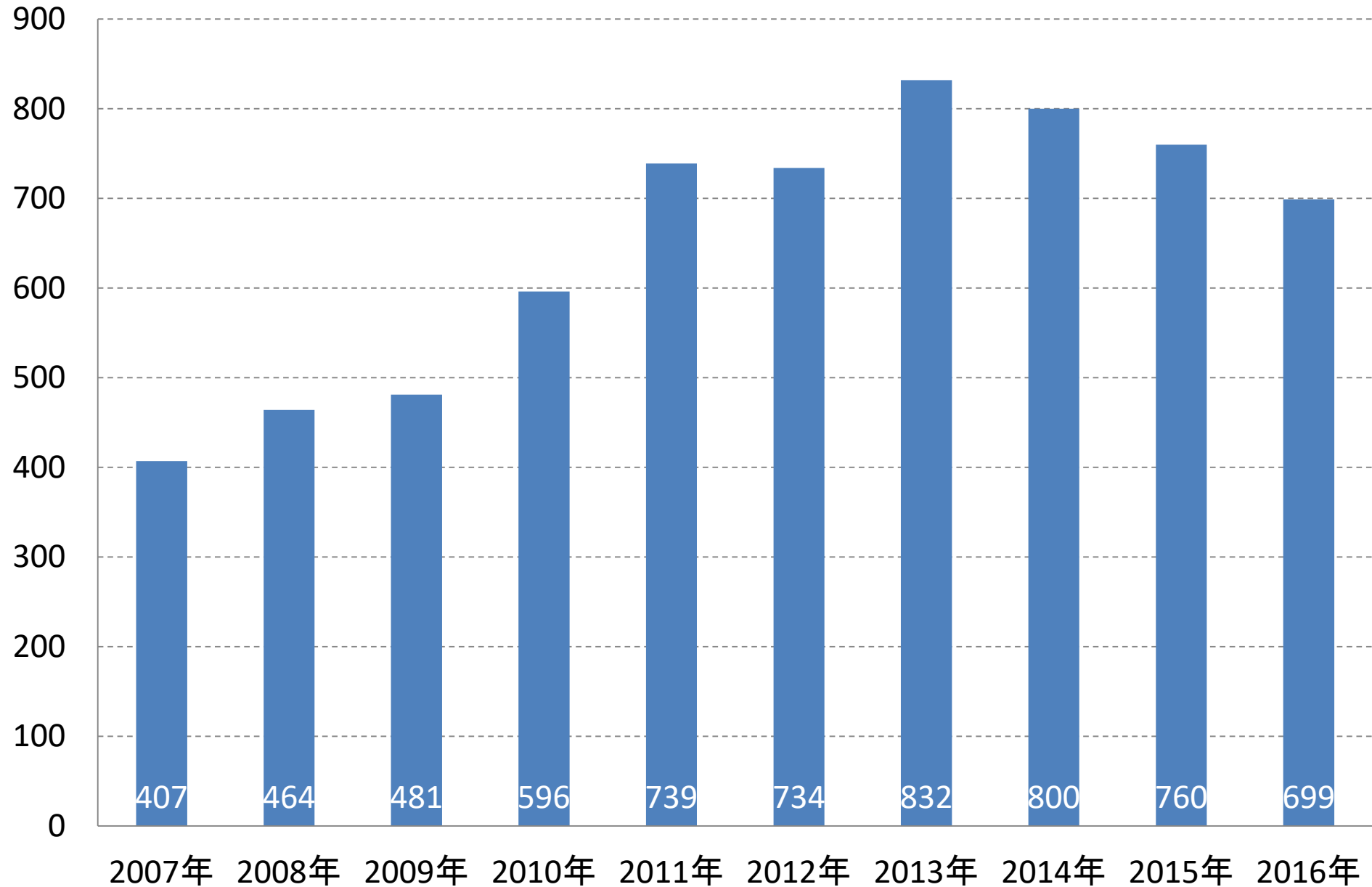
病期(ステージ)の有用性

1. 適切な治療方法の決定
2. 医療の結果を評価
3. 過去の経験から得られる予後情報の利用
4. がん研究への利用
5. 治療結果の評価の際に考慮する因子として利用

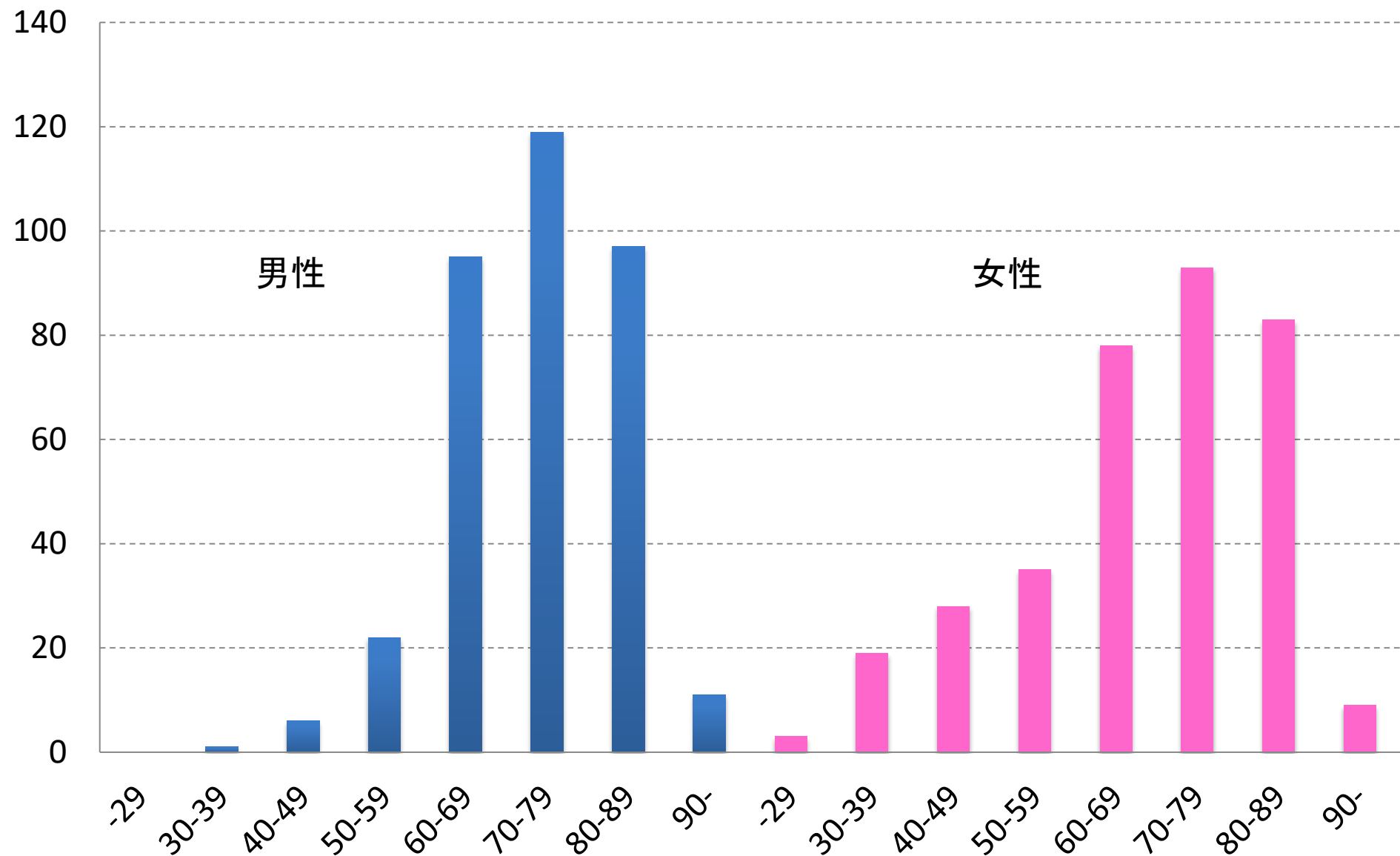
当院でがんと診断・治療された方々のがんの種類や病期、治療法などを通して、この地域でどのようながんが多いか、どの程度進行したがんが多いかなどの情報が得られます。

地域におけるがん検診の啓発やがん予防戦略に大いに役立つうえに、がんの新しい診断法や治療開発にもつながる可能性があります。

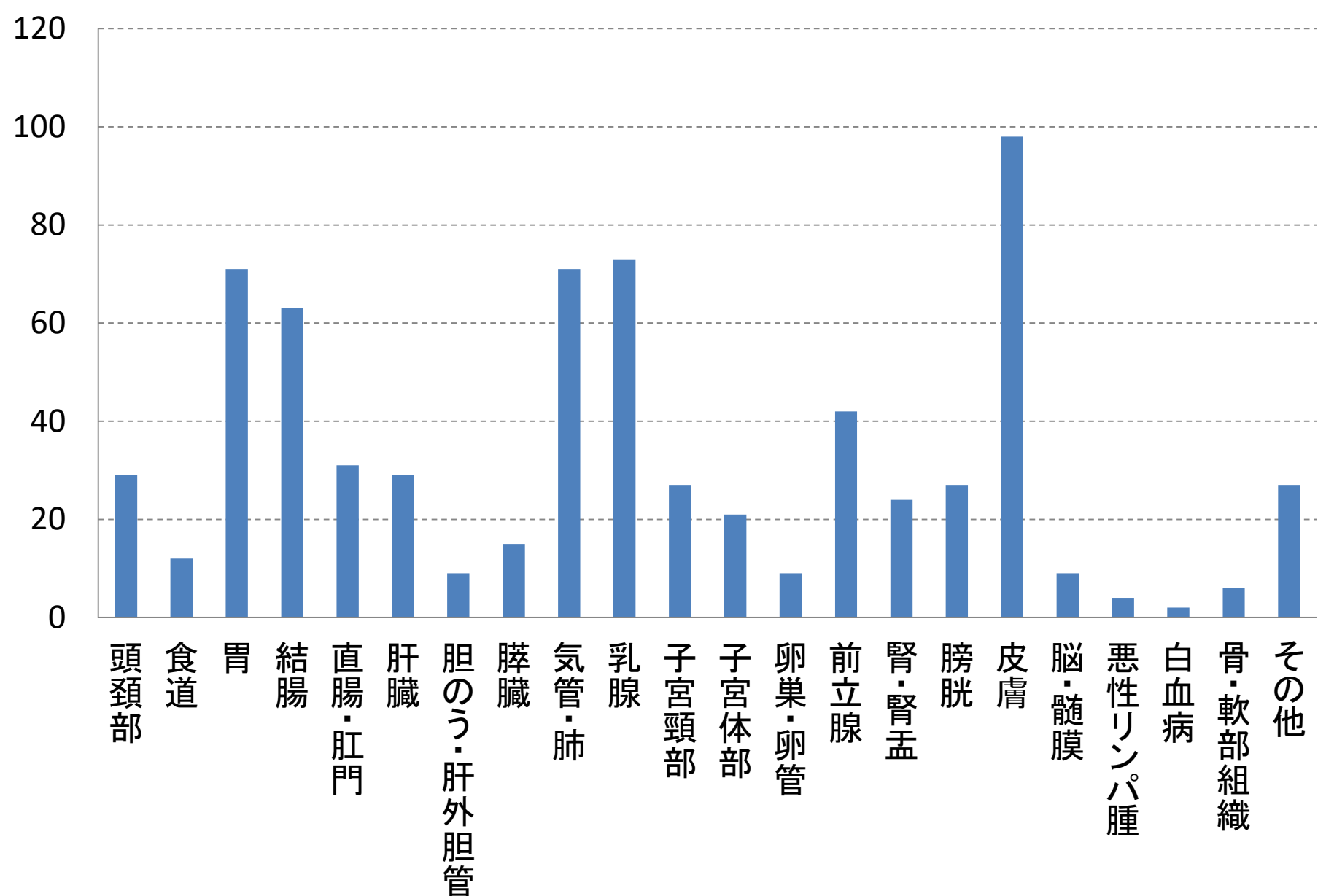
院内がん登録新規件数の年次推移



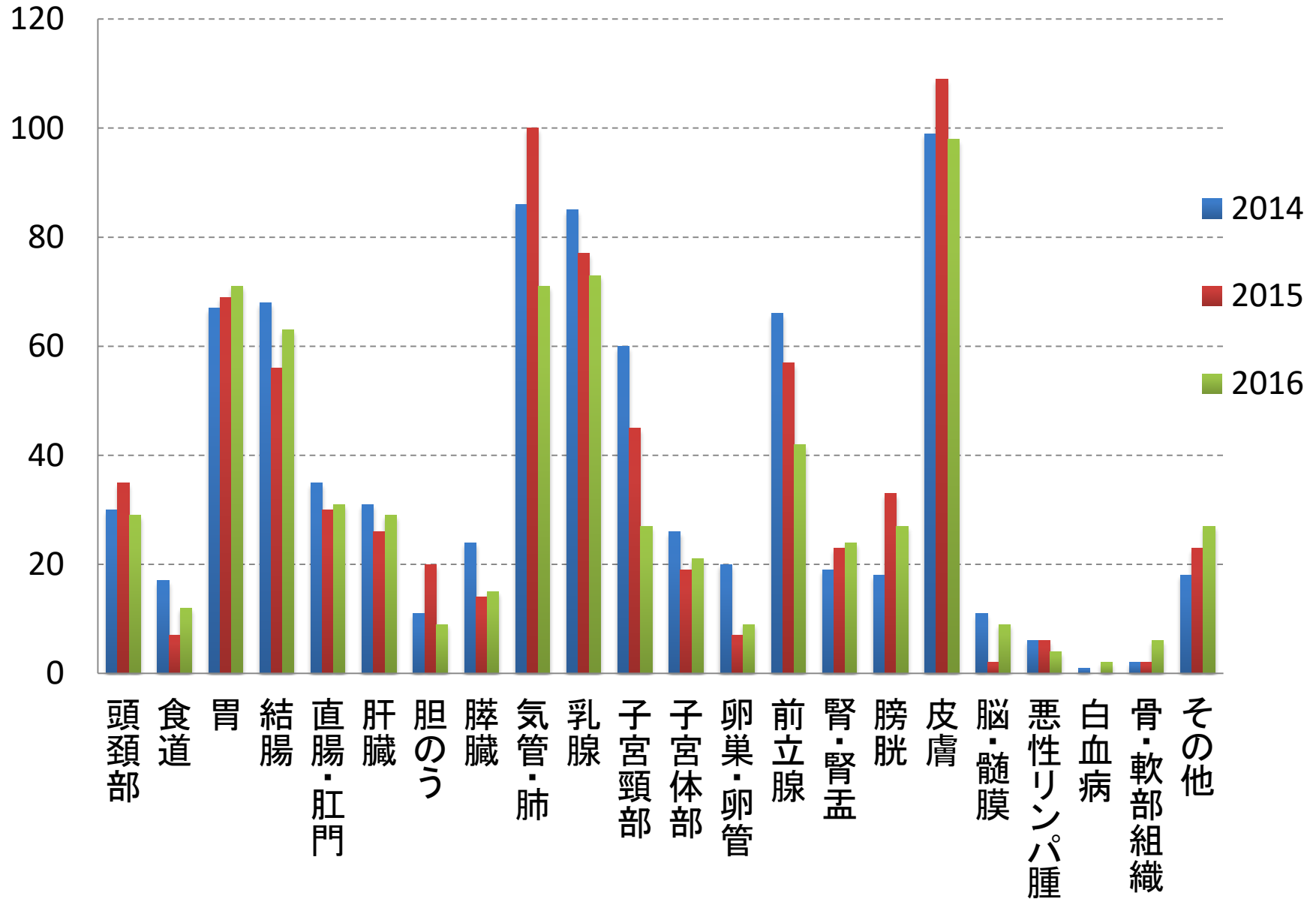
2016年 年齢別・男女別 登録件数



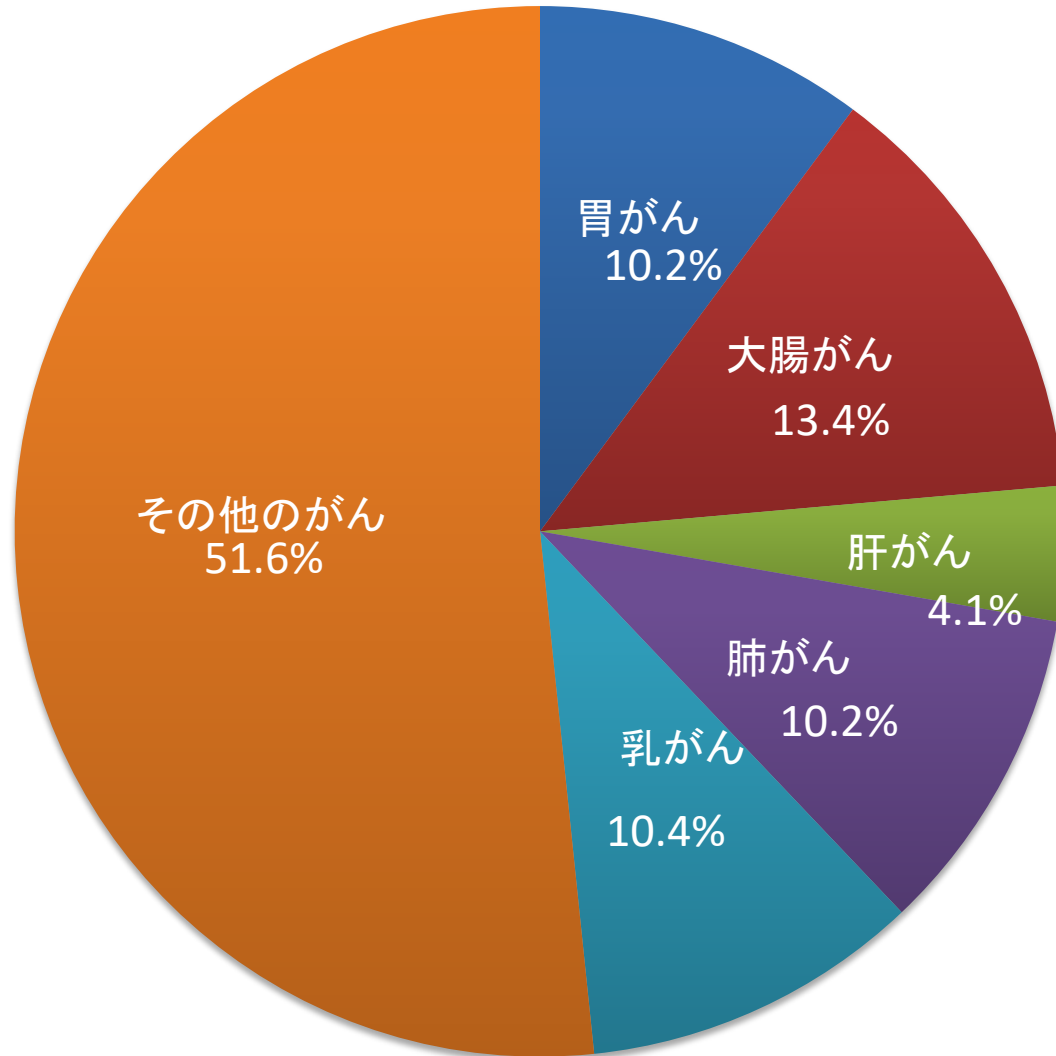
2016年 新規部位別登録数(699件)



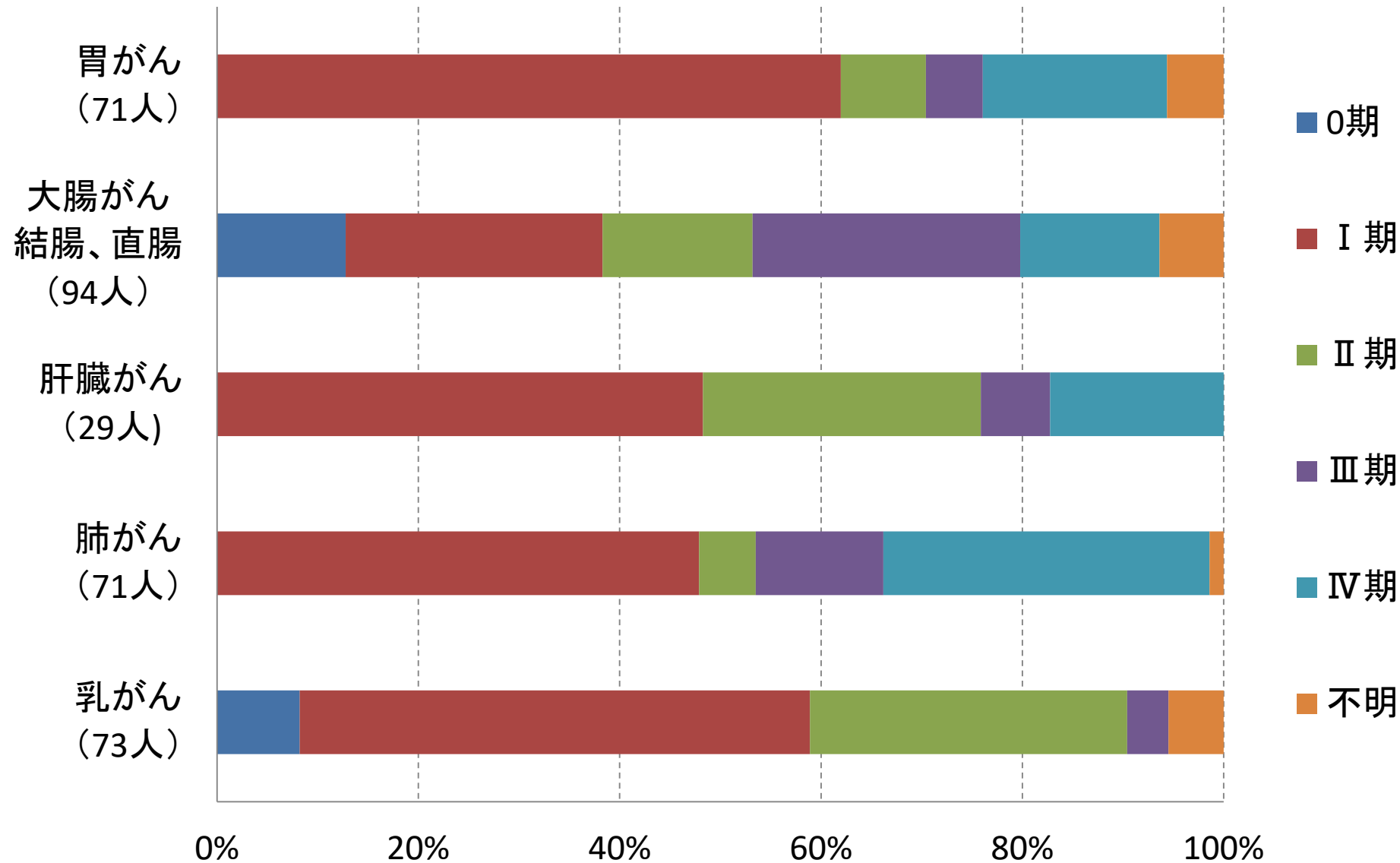
年度別・部位別 新規がん登録件数



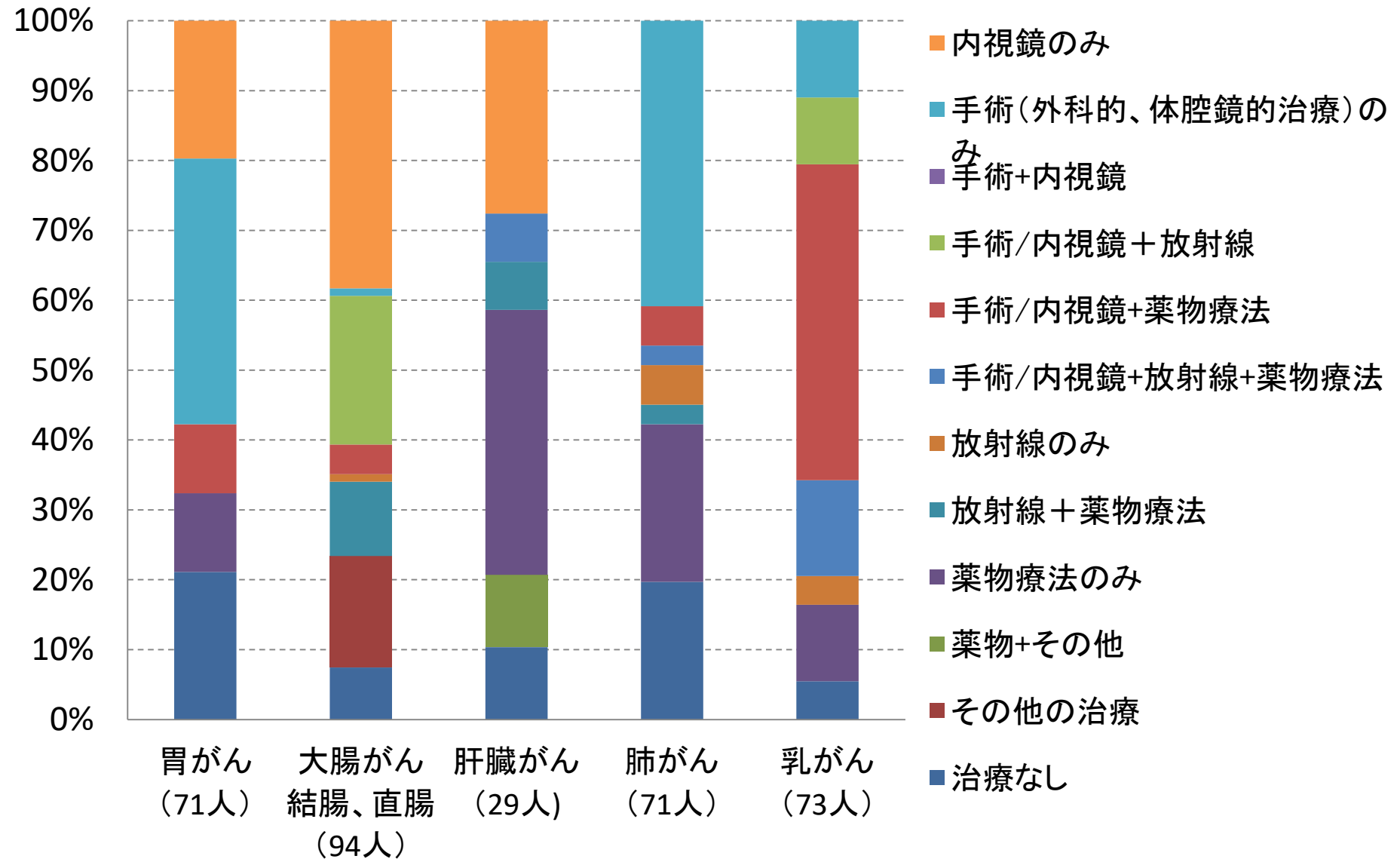
2016年5大がんの割合



5大がん種別のステージ割合(2016)



5大がん種別の治療法割合 (2016)



5大がん種別の後期高齢者(2016)

